

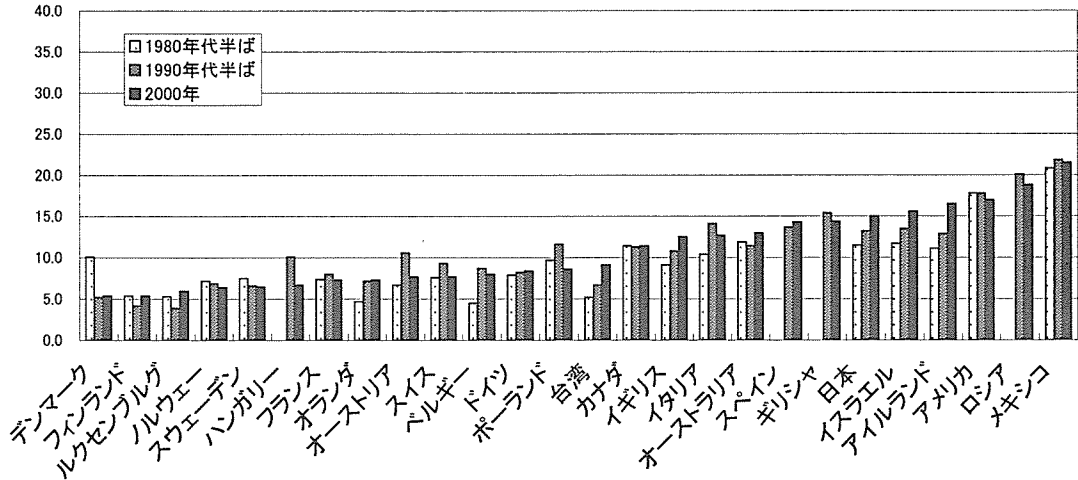
図表10 国別貧困率の比較

国	年	全体*			子供**			高齢者***		
		貧困線			貧困線			貧困線		
		40%	50%	60%	40%	50%	60%	40%	50%	60%
オーストラリア	1985	5.4	11.9	19.8	8.0	14.0	20.8	3.6	24.3	48.8
	1995	4.8	11.4	20.6	6.5	13.1	22.3	4.4	21.8	44.2
	2001	5.5	13.0	21.6	6.7	14.9	23.0	4.7	23.0	46.7
オーストリア	1987	2.8	6.7	11.7	2.6	4.8	9.9	6.8	18.5	30.1
	1995	7.4	10.6	17.0	10.6	15.0	22.3	6.9	10.3	22.6
	2000	3.6	7.7	13.6	3.8	7.8	16.2	5.8	13.7	21.4
ベルギー	1985	2.0	4.5	10.5	1.9	4.0	10.8	4.3	10.9	21.2
	1995	3.0	8.7	15.9	2.4	8.1	14.7	6.4	17.2	31.0
	2000	3.7	8.0	15.6	3.8	6.7	12.6	5.7	16.4	34.8
カナダ	1987	6.9	11.4	17.5	9.2	14.9	22.0	3.5	10.8	24.5
	1994	6.5	11.3	17.6	8.6	15.4	22.2	1.2	4.9	17.4
	2000	6.5	11.4	18.0	7.7	14.9	23.3	1.5	5.9	17.3
デンマーク	1987	4.1	10.1	17.3	2.6	4.7	8.8	5.2	31.5	55.9
	1995	1.9	5.2	12.0	1.3	2.7	7.8	0.6	11.4	35.2
	2000	2.0	5.4	13.1	1.2	2.7	8.9	0.8	12.1	36.9
フィンランド	1987	2.6	5.4	11.2	1.5	2.8	6.4	2.8	11.9	31.7
	1995	1.6	4.2	9.2	0.6	2.0	4.6	0.6	5.6	18.3
	2000	2.1	5.4	12.4	1.3	2.8	8.0	1.1	8.5	24.8
フランス	1984	4.2	7.4	13.1	4.1	7.5	14.4	1.5	4.8	11.5
	1994	3.4	8.0	14.1	2.9	7.9	14.3	3.4	9.8	18.5
	2000	2.8	7.3	13.7	2.6	7.9	15.9	3.0	8.5	16.2
ドイツ	1984	4.0	7.9	14.1	3.9	8.5	14.9	6.8	14.0	25.6
	1994	4.5	8.2	13.6	5.4	9.5	15.2	4.8	9.7	17.8
	2000	4.6	8.4	13.4	5.5	9.0	14.2	4.0	10.4	18.6
ギリシャ	1995	10.2	15.4	21.5	8.7	13.4	19.4	19.1	27.3	35.6
	2000	8.5	14.4	21.5	6.5	12.9	18.8	17.1	27.0	38.7
	1994	6.0	10.1	15.0	7.0	11.4	15.6	3.9	8.8	18.6
ハンガリー	1999	3.1	6.7	13.4	4.4	8.8	16.9	1.3	3.7	11.8
	1987	4.4	11.1	20.2	4.7	13.8	25.1	7.7	14.4	25.7
	1995	4.2	12.9	20.8	5.5	15.7	23.7	2.1	17.6	34.5
アイルランド	2000	8.4	16.5	22.7	9.7	17.2	23.0	15.5	35.8	54.1
	1986	4.9	11.7	19.5	5.6	12.7	22.4	5.5	23.3	31.7
	1997	8.2	13.5	21.9	6.7	13.3	24.5	20.3	26.4	35.3
イスラエル	2001	7.5	15.6	23.5	7.3	18.0	28.5	13.1	21.6	30.5
	1986	5.5	10.4	17.4	6.7	11.4	19.0	5.1	13.1	21.8
	1995	8.5	14.1	21.2	13.3	19.0	27.8	4.6	14.3	23.3
イタリア	2000	7.3	12.7	19.9	10.5	16.6	26.5	5.6	13.7	22.2
	1985	1.7	5.3	11.0	1.5	5.2	12.9	3.7	12.7	22.5
	1994	1.3	3.9	10.4	2.2	4.5	14.0	0.9	6.7	13.4
ルクセンブルグ	2000	1.4	6.0	12.5	2.1	9.1	18.3	1.1	3.7	10.5
	1984	15.0	20.8	27.5	16.8	23.5	31.6	20.7	27.3	32.3
	1994	14.6	21.8	27.8	17.8	26.2	32.9	20.9	31.0	38.0
メキシコ	2000	15.4	21.5	28.1	19.7	26.9	34.8	21.9	28.3	36.2
	1987	2.8	4.7	8.2	2.8	5.2	9.8	0.0	0.3	1.3
	1994	4.4	7.2	13.3	4.6	7.9	12.8	2.9	5.3	22.7
オランダ	1999	4.6	7.3	12.7	5.8	9.8	14.8	1.4	2.4	12.8
	1986	2.4	7.2	12.7	2.7	4.3	8.3	1.7	21.7	38.4
	1995	3.1	6.9	13.1	2.2	3.9	9.6	0.7	14.5	29.4
ノルウェー	2000	2.9	6.4	12.3	1.6	3.4	7.5	1.2	11.9	28.9
	1986	4.5	9.7	17.0	6.1	11.7	19.7	5.5	17.0	31.2
	1995	7.2	11.6	17.7	9.5	15.4	23.0	5.0	8.4	14.2
ポーランド	1999	4.1	8.6	15.2	6.3	12.7	21.5	1.1	3.6	9.3
	1995	14.1	20.1	25.7	18.2	23.7	28.8	10.0	18.4	26.7
	2000	13.6	18.8	25.6	16.7	22.2	28.9	7.8	13.8	24.2
ロシア	1995	8.4	13.7	20.5	12.7	17.8	24.9	3.3	12.5	24.8
	2000	7.9	14.3	21.3	9.9	16.1	24.4	10.2	23.4	34.4
	1987	4.4	7.5	12.5	1.8	3.5	6.3	1.1	7.2	20.6
スウェーデン	1995	4.7	6.6	10.0	1.3	2.6	5.5	0.8	2.7	7.8
	2000	3.8	6.5	12.3	1.8	4.2	9.2	2.1	7.7	21.2
	1982	4.2	7.6	13.5	2.0	4.3	9.5	9.0	19.3	36.8
スイス	1992	6.7	9.3	14.7	7.1	10.0	16.4	4.7	8.4	19.0
	2000	3.9	7.7	13.5	4.6	8.9	15.0	5.3	13.1	27.8
	1986	1.8	5.2	11.3	1.8	5.9	13.4	6.8	13.0	21.2
台湾	1995	23.8	6.7	13.4	2.0	6.2	14.6	12.7	21.7	30.9
	2000	4.5	9.1	15.7	3.0	8.0	16.1	16.1	25.7	35.9
	1986	4.6	9.1	17.6	6.2	12.5	22.8	0.9	7.0	23.4
イギリス	1994	4.3	10.8	20.0	4.3	13.9	26.6	5.0	15.1	29.4
	1999	5.3	12.5	21.1	5.9	17.0	28.0	6.7	17.2	31.6
	1986	12.4	17.8	23.7	18.5	25.1	32.0	14.1	23.5	32.1
アメリカ	1994	11.8	17.8	24.3	16.9	24.5	32.3	11.8	20.6	29.3
	2000	10.8	17.0	23.8	14.1	21.9	30.2	15.1	24.7	33.3
	1986	7.0	11.5	17.4	5.7	10.3	16.6	16.2	22.9	30.1
日本	1995	8.2	13.2	19.2	6.6	11.5	18.7	14.8	22.2	29.7
	2001	9.8	15.0	21.4	9.0	14.4	21.9	13.6	20.4	44.8

注)*全体=人口 **子供=18歳未満 ***高齢者=65歳以上

貧困率(%)

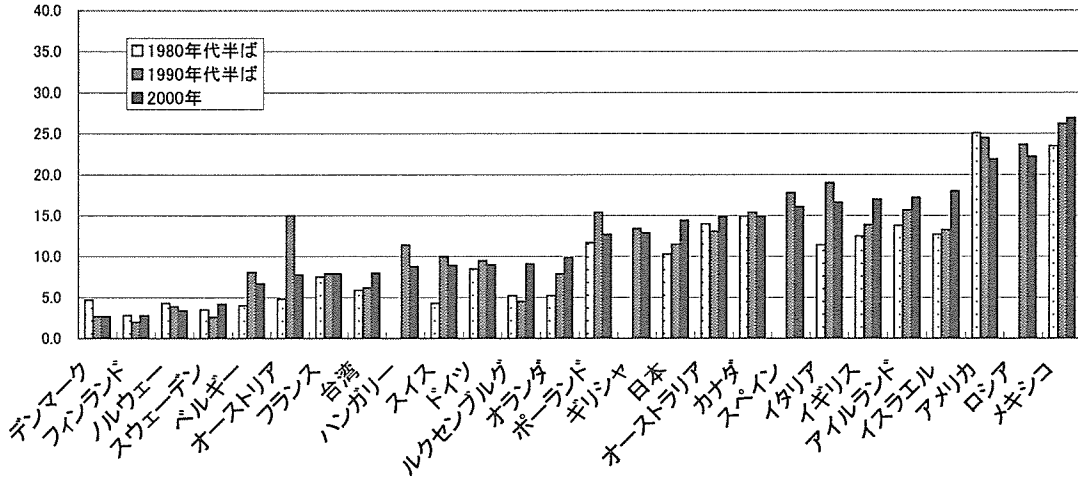
図表11 国別全体貧困率の比較



注)2000年貧困率(所得中央値50%以下)による序列づけ

貧困率(%)

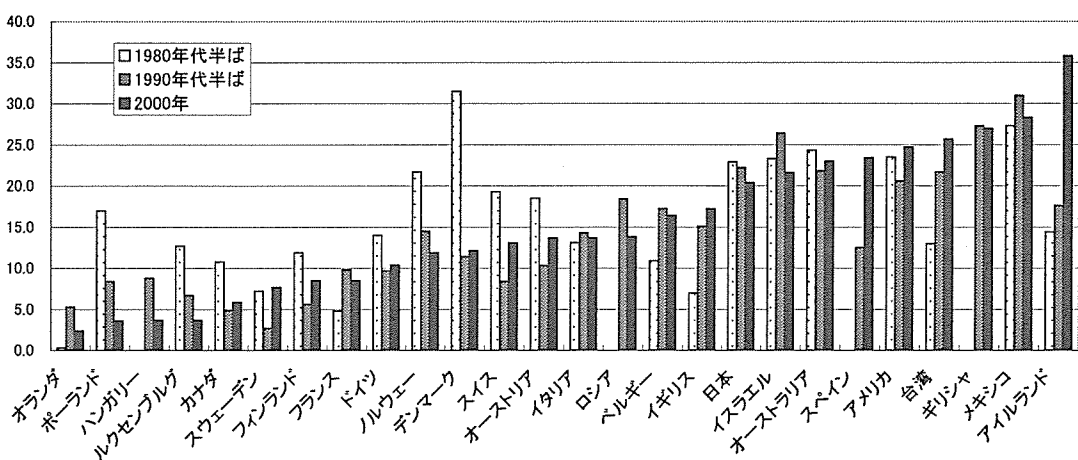
図表12 国別子供の貧困率の比較



注)2000年貧困率(所得中央値50%以下)による序列づけ

貧困率(%)

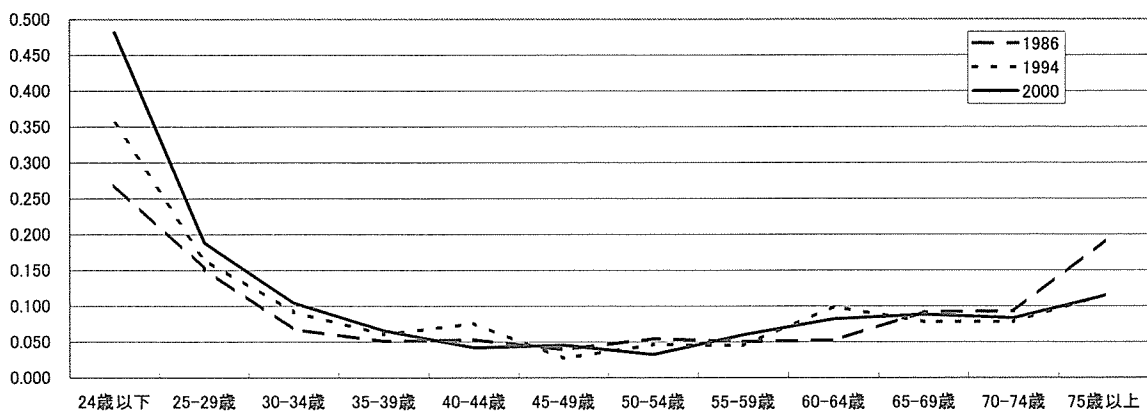
図表13 国別高齢者の貧困率の比較



注)2000年貧困率(所得中央値50%以下)による序列づけ

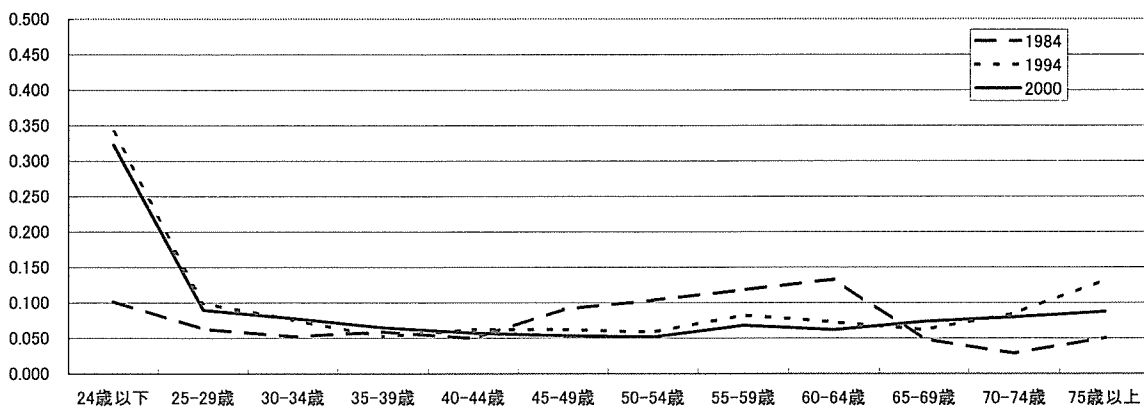
貧困率

図表14 ドイツ年齢階層別貧困率(所得中央値50%以下)



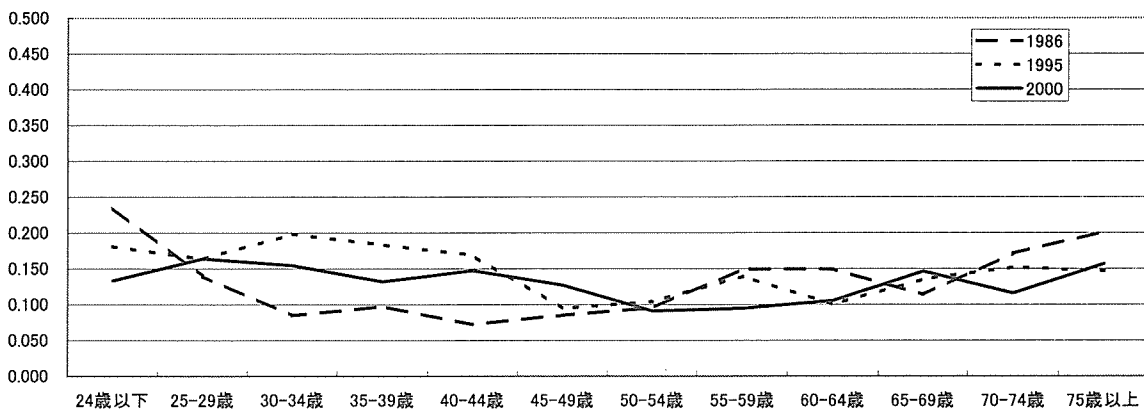
貧困率

図表15 フランス年齢階層別貧困率(所得中央値50%以下)



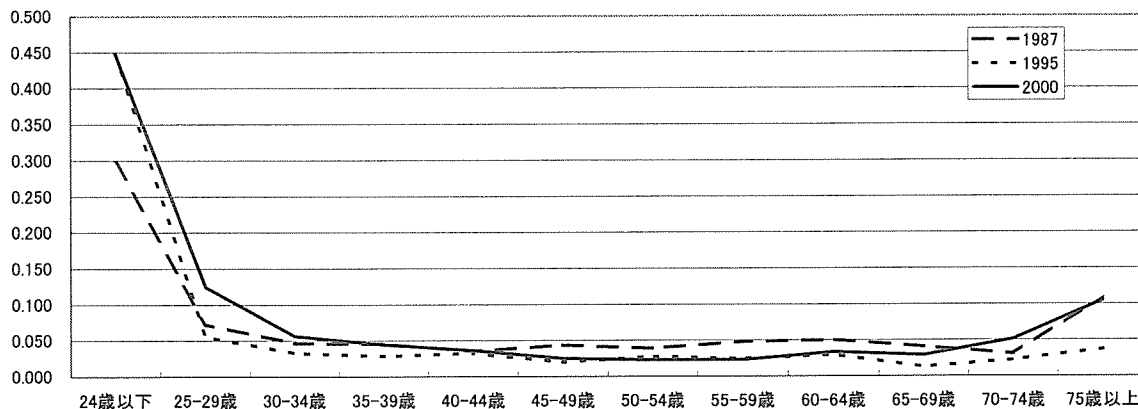
貧困率

図表16 イタリア年齢階層別貧困率(所得中央値50%以下)



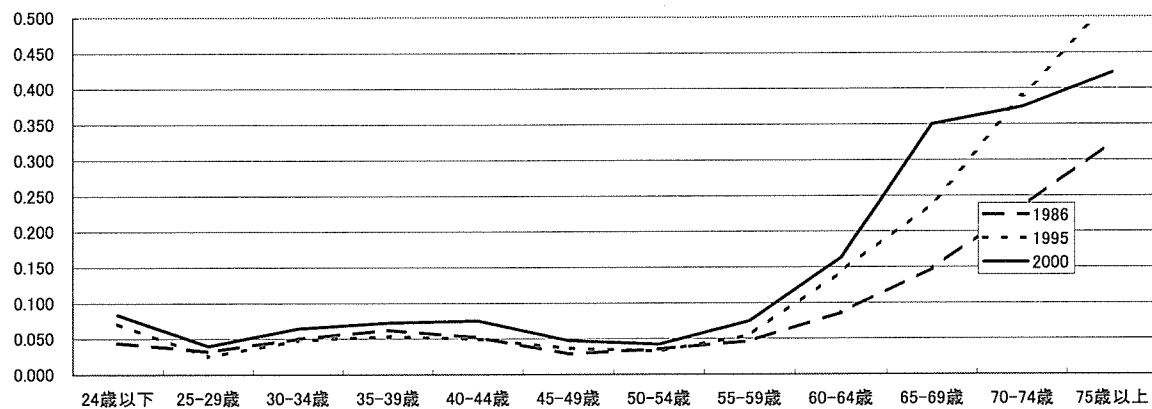
貧困率

図表17 スウェーデン年齢階層別貧困率(所得中央値50%以下)



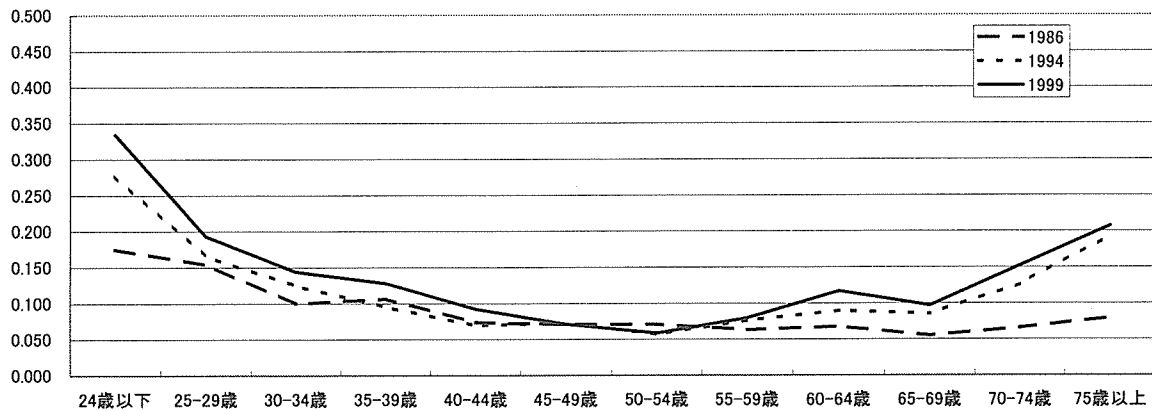
貧困率

図表18 台湾年齢階層別貧困率(所得中央値50%以下)



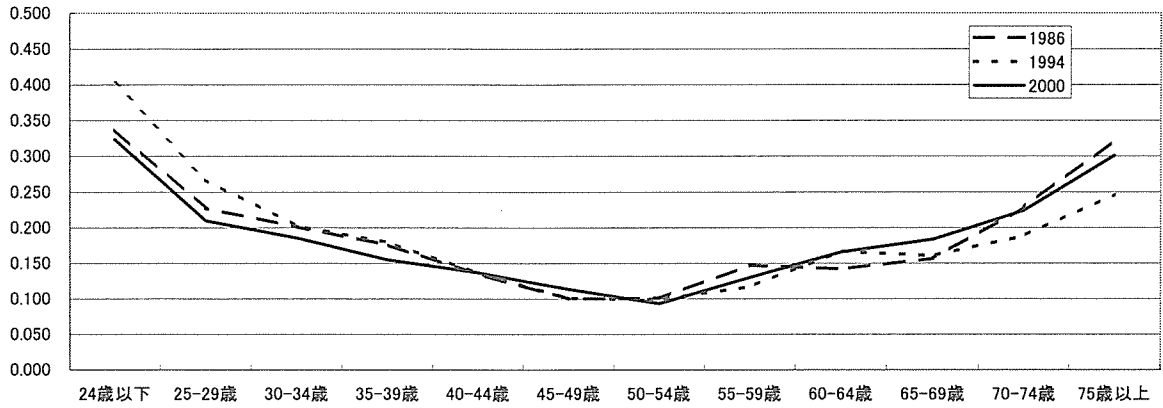
貧困率

図表19 イギリス年齢階層別貧困率(所得中央値50%以下)



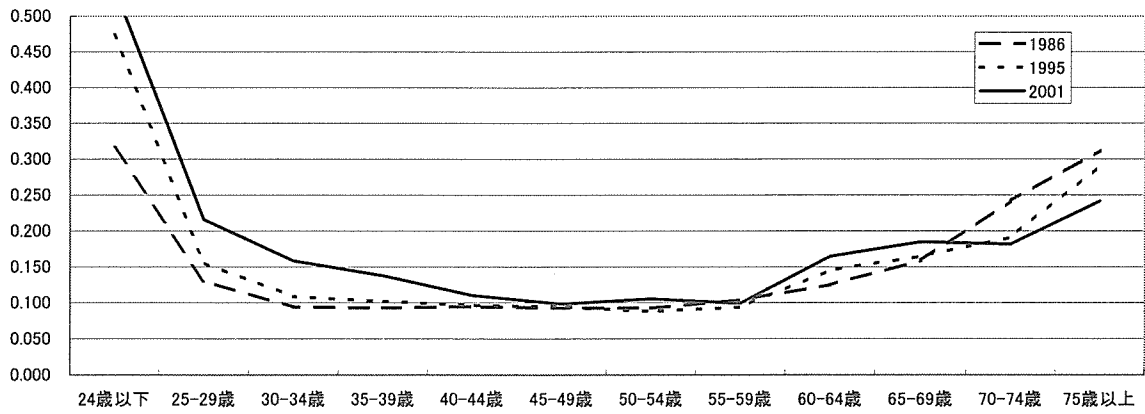
貧困率

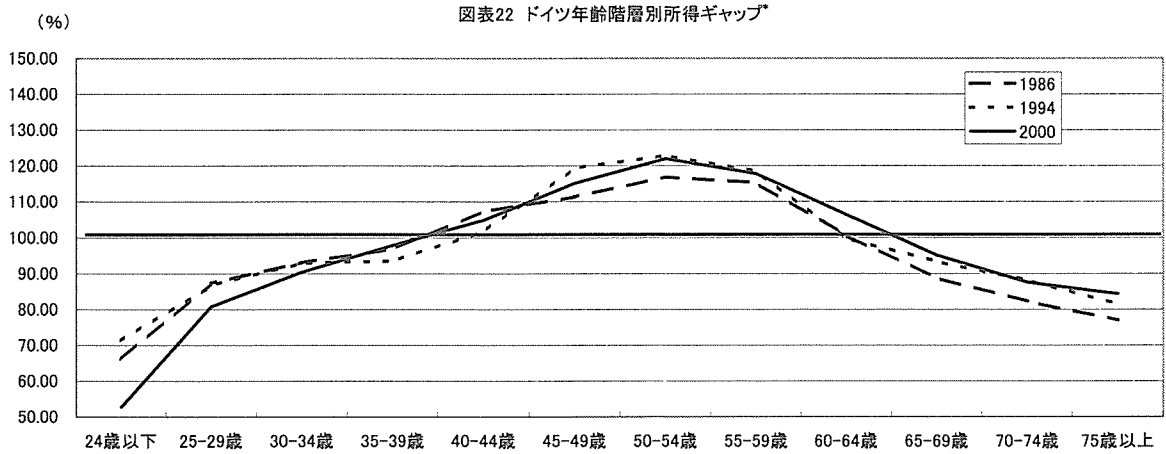
図表20 アメリカ年齢階層別貧困率(所得中央値50%以下)



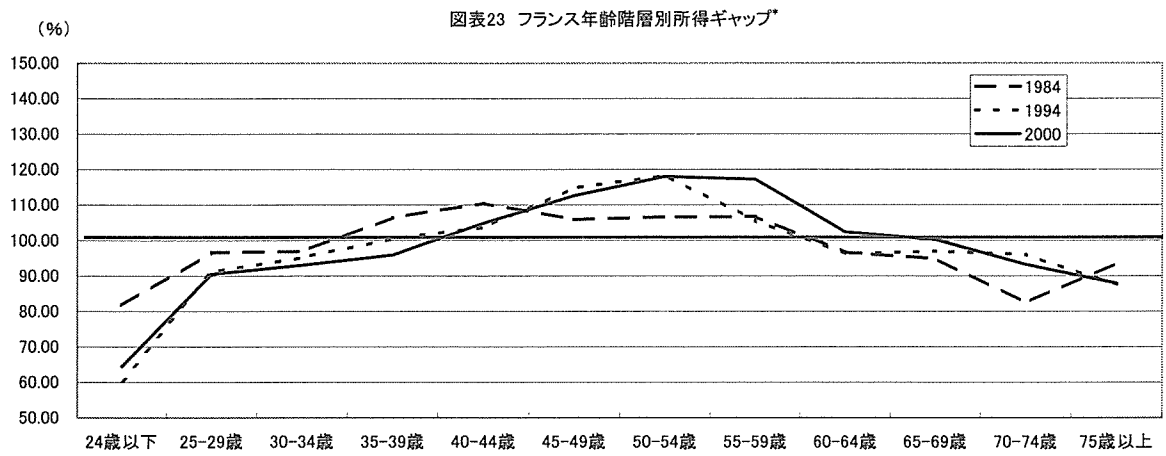
貧困率

図表21 日本年齢階層別貧困率(所得中央値50%以下)

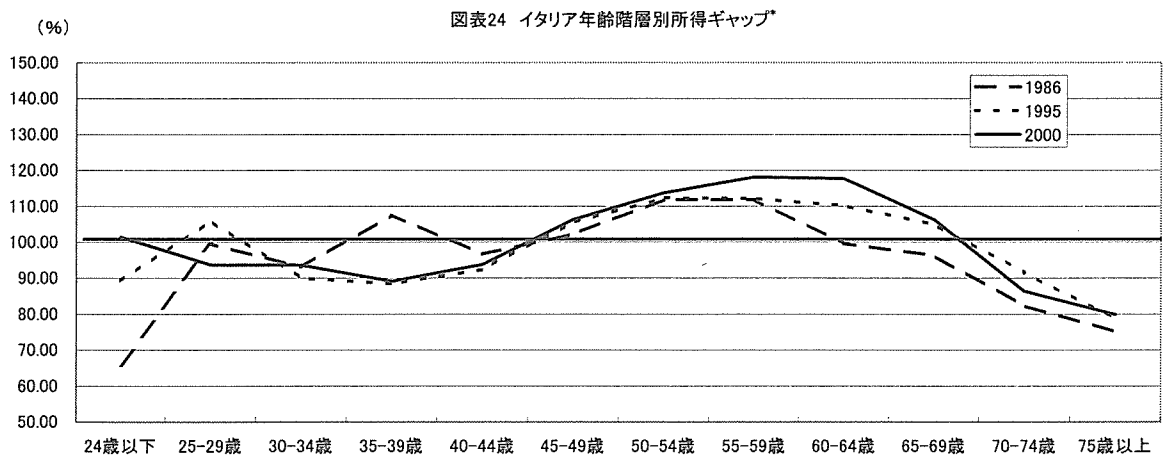




注)*所得ギャップ=(各年齢階層の所得中央値/全体所得中央値)×100

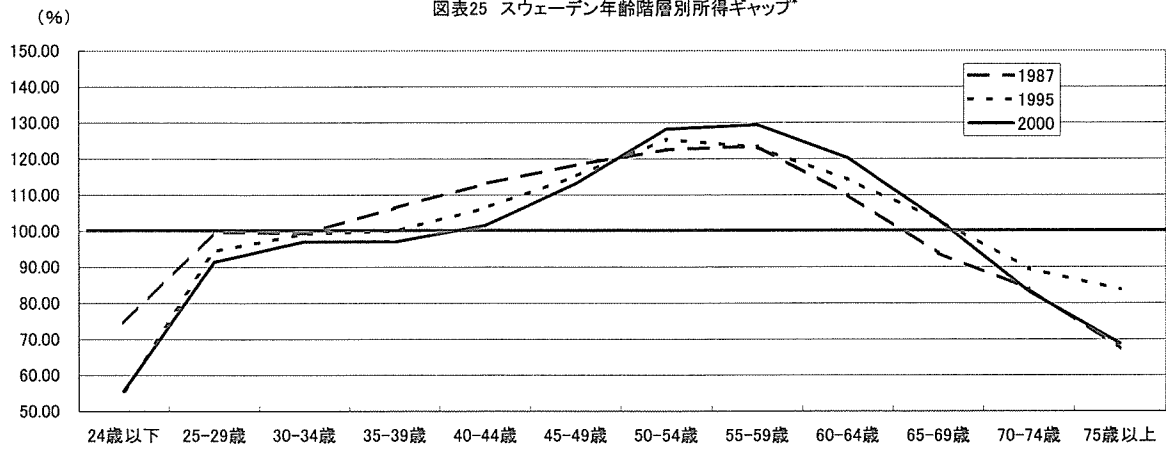


注)*所得ギャップ=(各年齢階層の所得中央値/全体所得中央値)×100



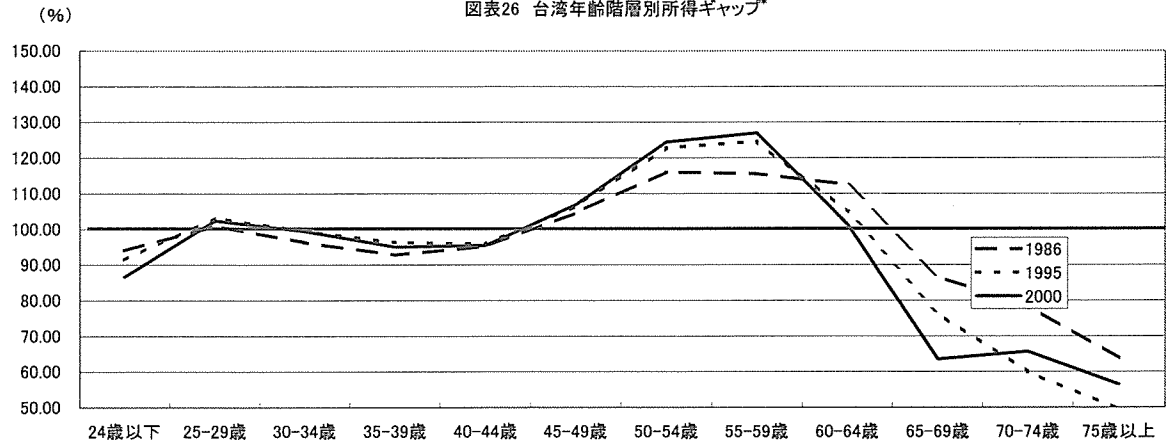
注)*所得ギャップ=(各年齢階層の所得中央値/全体所得中央値)×100

図表25 スウェーデン年齢階層別所得ギャップ*



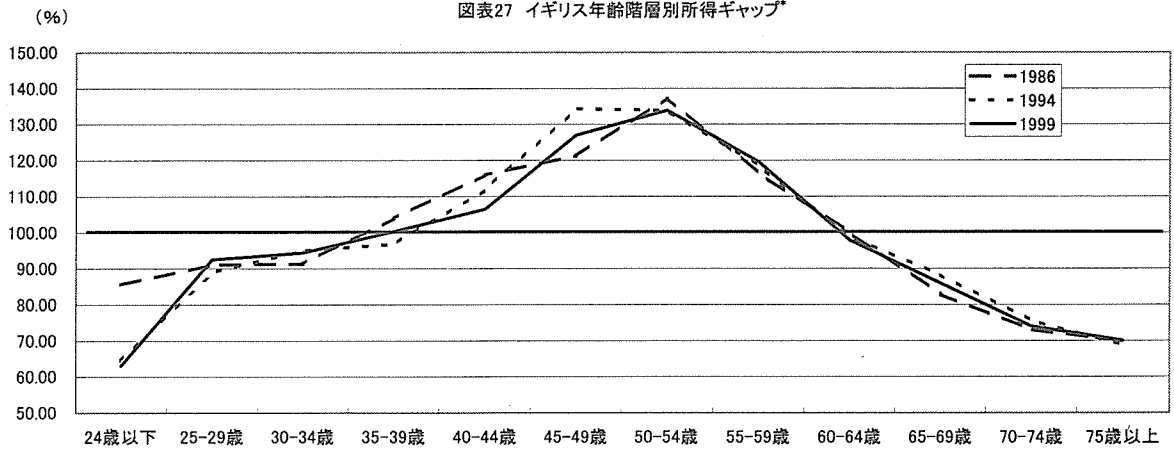
注)*所得ギャップ=(各年齢階層の所得中央値/全体所得中央値)×100

図表26 台湾年齢階層別所得ギャップ*

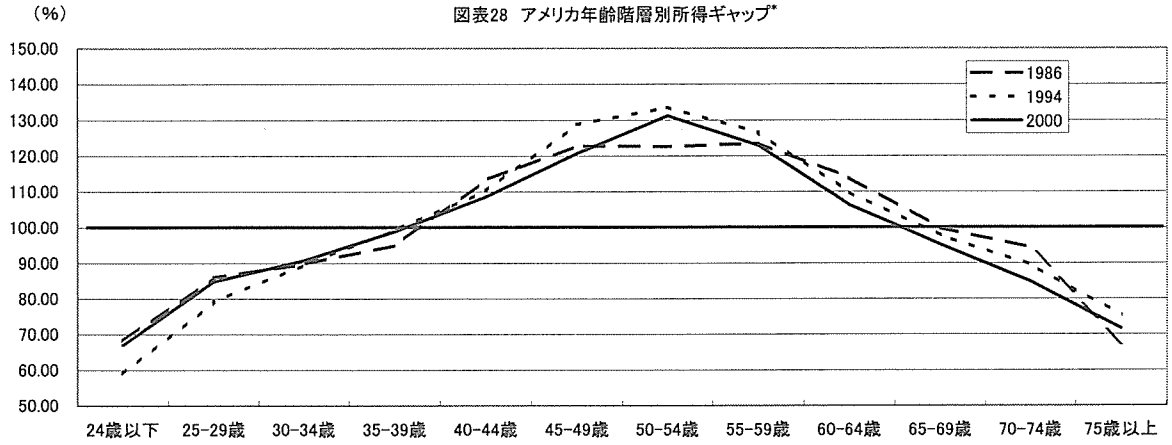


注)*所得ギャップ=(各年齢階層の所得中央値/全体所得中央値)×100

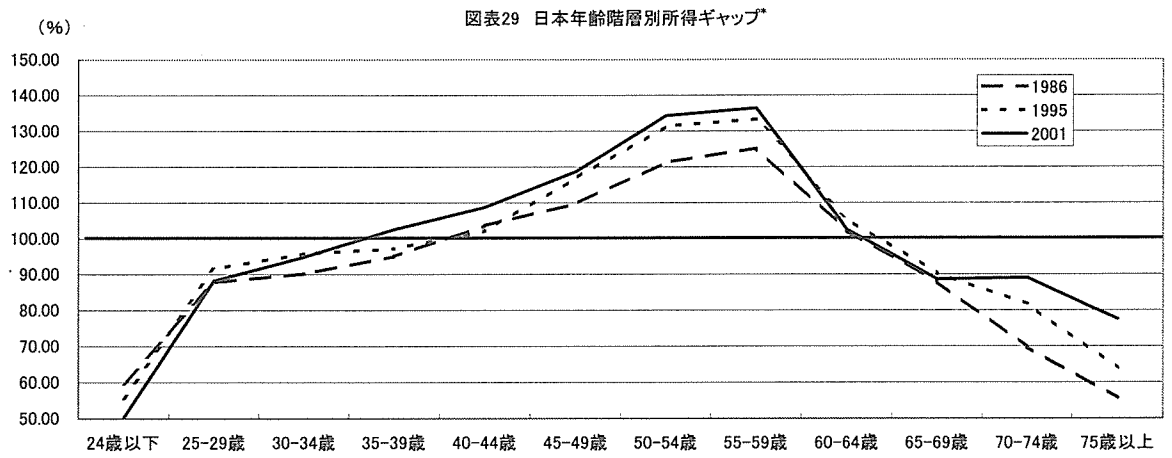
図表27 イギリス年齢階層別所得ギャップ*



注)*所得ギャップ=(各年齢階層の所得中央値/全体所得中央値)×100

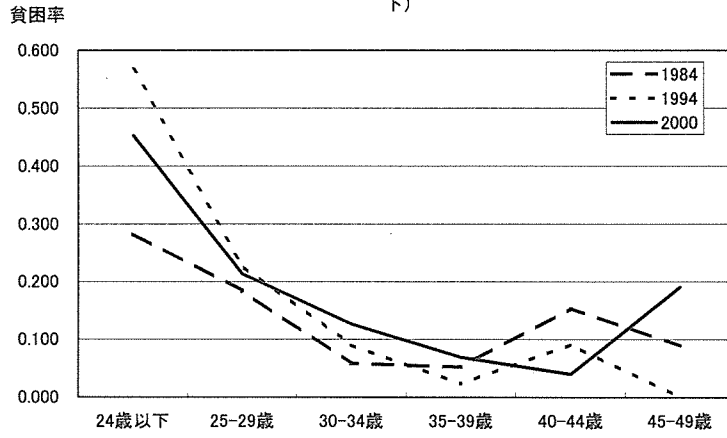


注)*所得ギャップ=(各年齢階層の所得中央値/全体所得中央値)×100

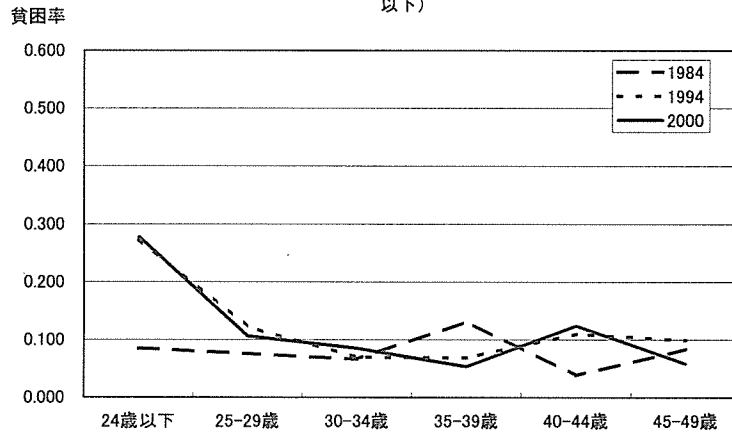


注)*所得ギャップ=(各年齢階層の所得中央値/全体所得中央値)×100

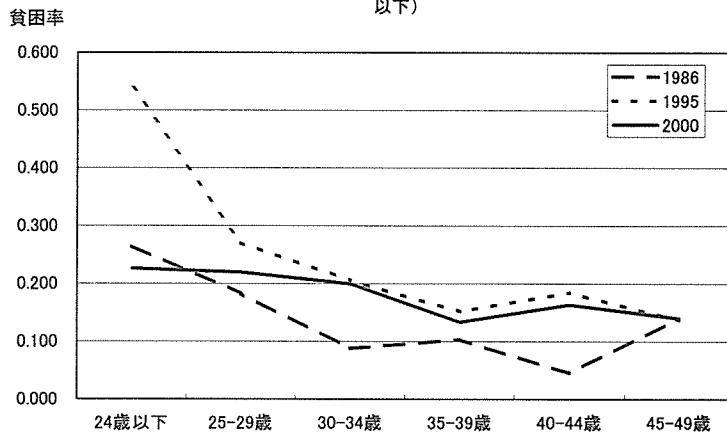
図表30 ドイツ年齢階層別未就学児童のいる世帯の貧困率(所得中央値50%以下)



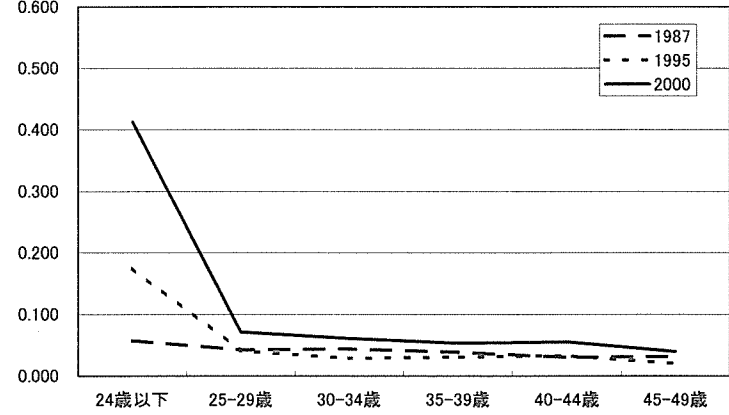
図表31 フランス年齢階層別未就学児童のいる世帯の貧困率(所得中央値50%以下)



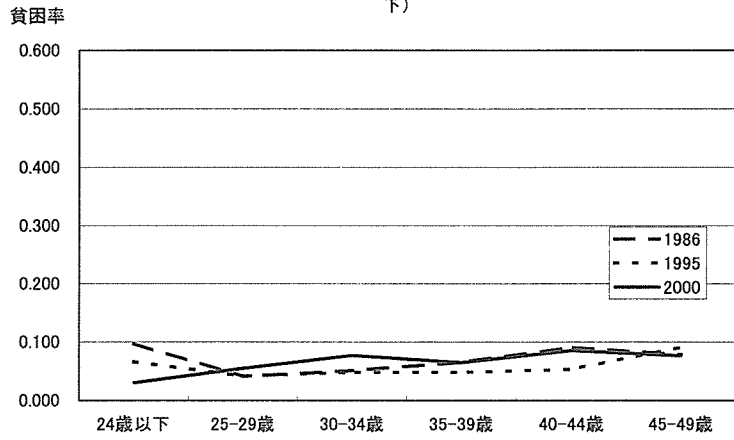
図表32 イタリア年齢階層別未就学児童のいる世帯の貧困率(所得中央値50%以下)



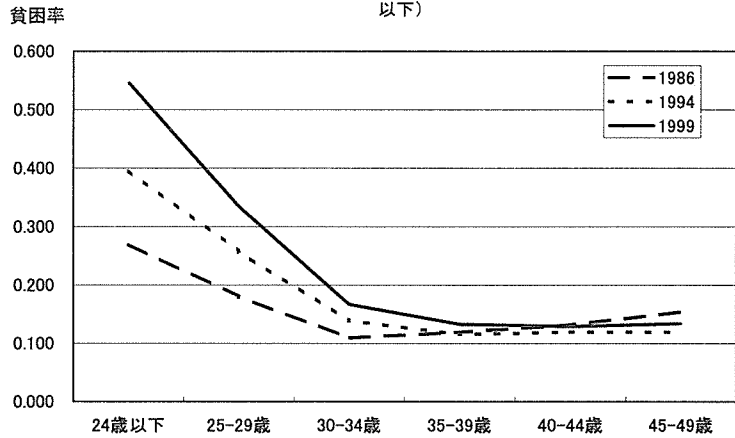
図表33 スウェーデン年齢階層別未就学児童のいる世帯の貧困率(所得中央値50%以下)



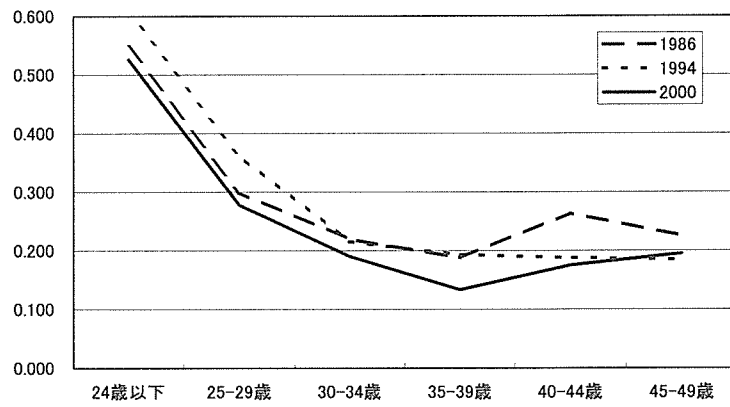
図表34 台湾年齢階層別未就学児童のいる世帯の貧困率(所得中央値50%以下)



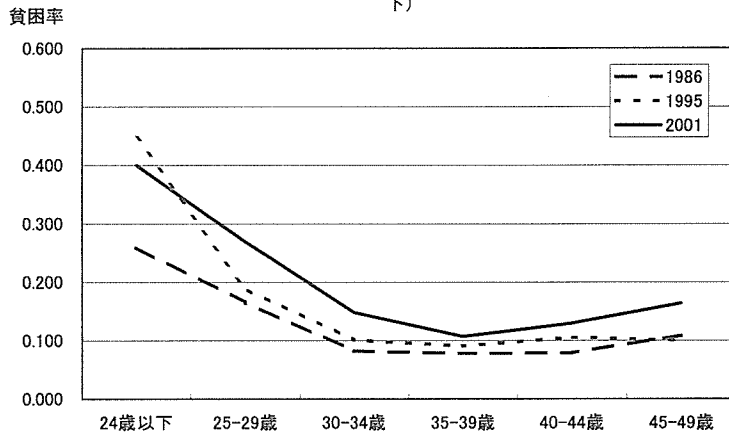
図表35 イギリス年齢階層別未就学児童のいる世帯の貧困率(所得中央値50%以下)



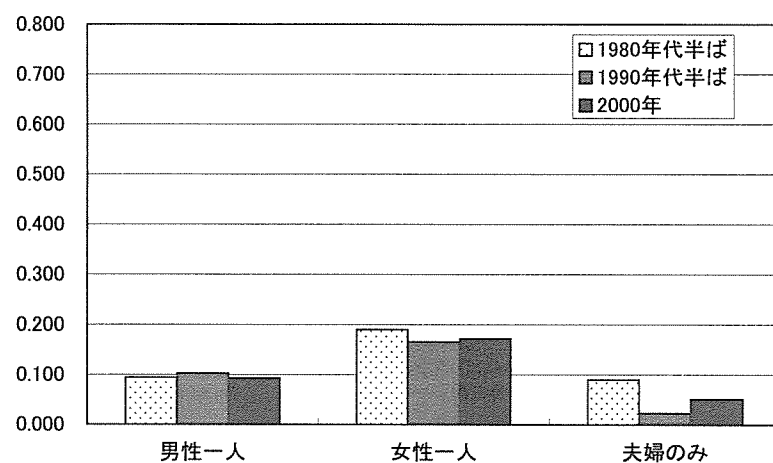
図表36 アメリカ年齢階層別未就学児童のいる世帯の貧困率(所得中央値50%以下)



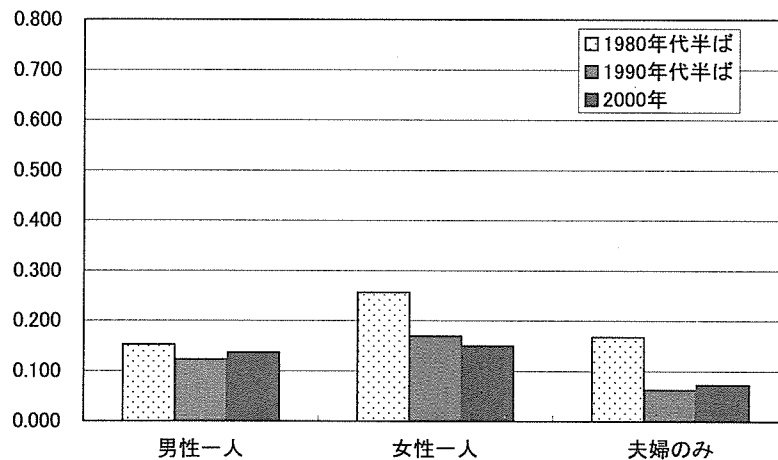
図表37 日本年齢階層別未就学児童のいる世帯の貧困率(所得中央値50%以下)



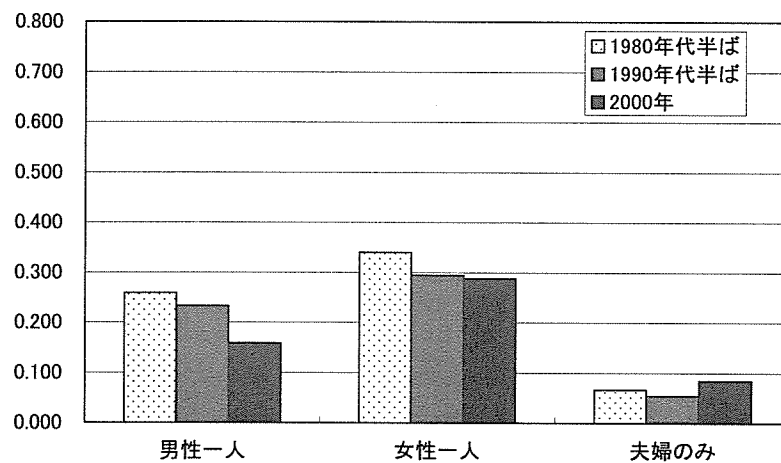
図表38 ドイツ高齢者一人暮らしと夫婦のみ世帯の貧困率



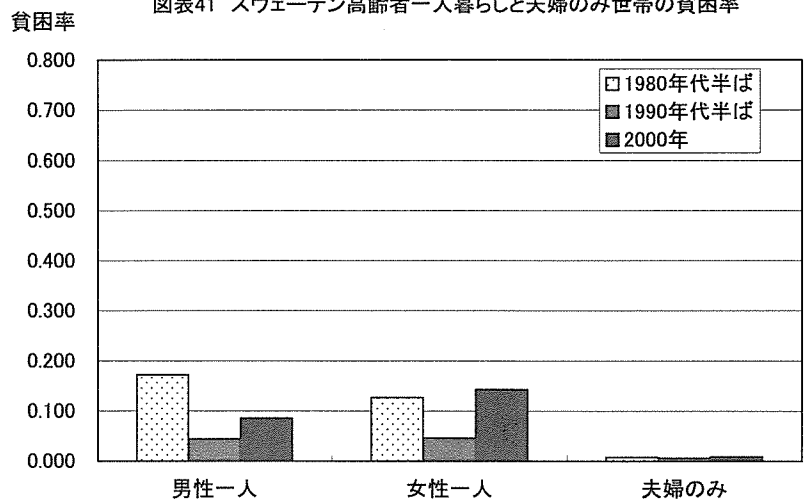
図表39 フランス高齢者一人暮らしと夫婦のみ世帯の貧困率



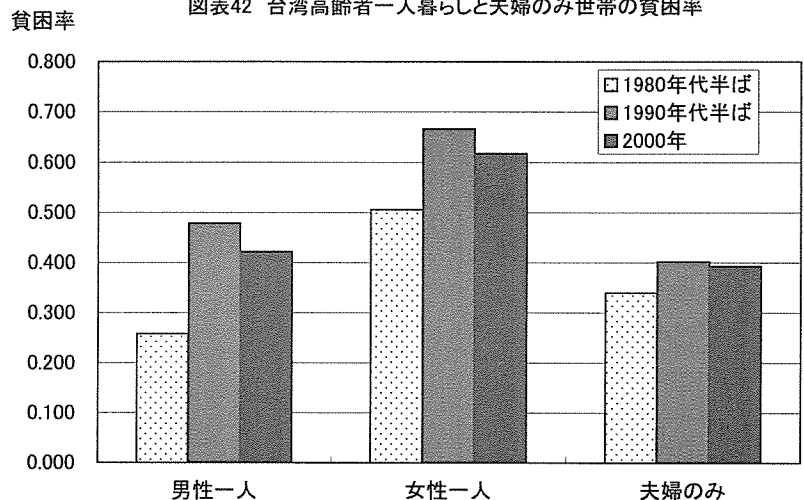
図表40 イタリア高齢者一人暮らしと夫婦のみ世帯の貧困率



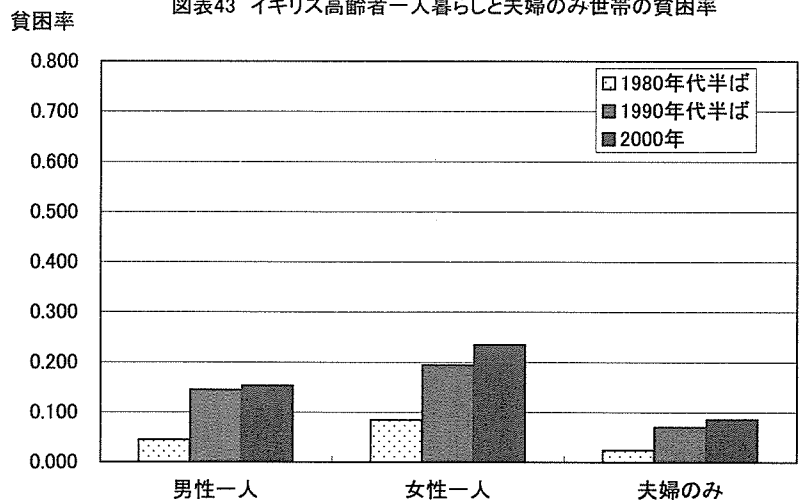
図表41 スウェーデン高齢者一人暮らしと夫婦のみ世帯の貧困率



図表42 台湾高齢者一人暮らしと夫婦のみ世帯の貧困率

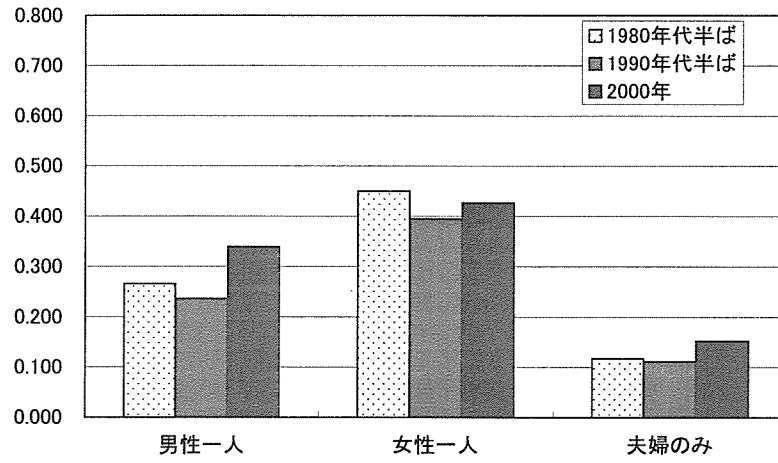


図表43 イギリス高齢者一人暮らしと夫婦のみ世帯の貧困率



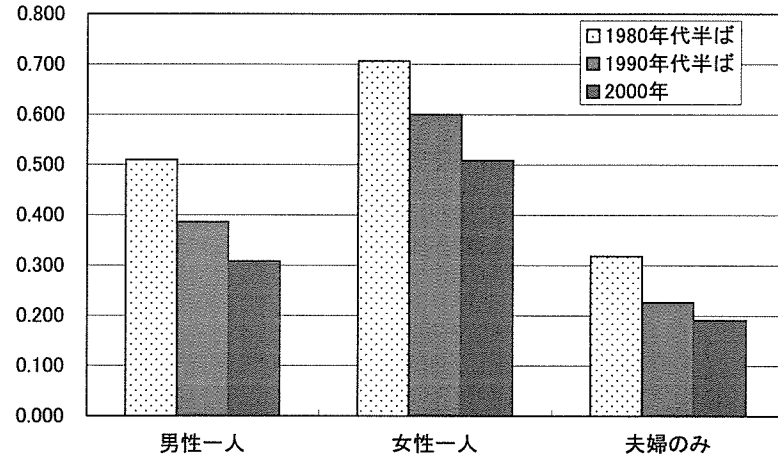
貧困率

図表44 アメリカ高齢者一人暮らしと夫婦のみ世帯の貧困率



貧困率

図表45 日本高齢者一人暮らしと夫婦のみ世帯の貧困率



図表46 ドイツ高齢者のいる世帯の構造分布

	1984年	1994年	2000年
男性単身	7.0	6.7	7.1
女性単身	35.3	40.0	34.6
夫婦のみ	46.6	46.4	52.7
核家族	0.4	0.4	0.4
その他	10.8	6.5	5.3

図表47 フランス高齢者のいる世帯の構造分布

	1984年	1994年	2000年
男性単身	5.9	6.9	7.5
女性単身	26.8	24.7	22.9
夫婦のみ	50.4	56.8	60.7
核家族	0.7	0.6	0.6
その他	16.2	11.1	8.3

図表48 イタリア高齢者のいる世帯の構造分布

	1986年	1995年	2000年
男性単身	3.9	4.1	5.8
女性単身	16.9	20.8	19.5
夫婦のみ	51.8	52.8	54.6
核家族	2.0	0.9	0.9
その他	25.4	21.4	19.2

図表49 スウェーデン高齢者のいる世帯の構造分布

	1987年	1995年	2000年
男性単身	14.8	12.8	12.4
女性単身	31.7	33.4	33.0
夫婦のみ	51.8	52.6	51.4
核家族	0.3	0.2	0.3
その他	1.5	1.0	2.9

図表50 台湾高齢者のいる世帯の構造分布

	1986年	1995年	2000年
男性単身	3.9	6.2	5.7
女性単身	1.9	3.8	5.7
夫婦のみ	17.4	28.0	33.5
核家族	4.3	3.7	3.1
その他	72.5	58.3	52.1

図表51 イギリス高齢者のいる世帯の構造分布

	1986年	1994年	1999年
男性単身	8.6	8.4	9.4
女性単身	26.0	25.9	27.2
夫婦のみ	51.2	54.6	53.0
核家族	0.7	0.8	0.6
その他	13.5	10.3	9.7

図表52 アメリカ高齢者のいる世帯の構造分布

	1986年	1994年	2000年
男性単身	6.4	7.2	7.5
女性単身	25.8	24.2	22.7
夫婦のみ	49.2	51.7	50.3
核家族	1.7	1.6	1.8
その他	17.0	15.2	17.7

図表53 日本高齢者のいる世帯の構造分布

	1986年	1995年	2001年
男性単身	2.1	3.0	3.5
女性単身	10.0	12.7	15.8
夫婦のみ	19.7	25.5	28.8
核家族	14.3	17.1	17.9
その他	53.9	41.8	34.0

第3章

日本は中流意識が台頭する国か？

— 階層帰属意識の国際比較研究 —

白波瀬佐和子（東京大学）

日本は中流意識が台頭する国か？ 階層帰属意識の国際比較研究

白波瀬佐和子（東京大学）

1. 社会階層の中の若年

日本はかつて大多数が中流意識をもつ国として「総中流社会」が謳われ、無階級社会であることが強調された(村上 1977; 1984)。どの家にもテレビがあつて、洗濯機があり、掃除機がある。日本中どこにいても、同じアイドル歌手の歌を口ずさんで、同じグラビア雑誌に載った洋服をまとう。だれであろうが、どこにしようが、同じライフスタイルを共有して日本は極めて同質的な国である。1980年代から1990年代にかけて日本人論が活発化し、和を重んずる日本人が強調された。

しかし、1990年代半ばまえバブルが崩壊し、他人事であつた失業率も上がり始め、これまで失業と無縁と思われていた中高年にも突然解雇される現実がはだかる。日本も意外と不平等な国である。なんとなく芽生えた懐疑心を後ろ押しするかのようになり、橘木(1998)の『日本の経済格差』や佐藤(2000)の『不平等社会日本』がベストセラーとなる。

若年層は正規雇用の機会が減って非正規雇用へと流れる。フリーター、ニートと横文字で表現される若者の生き方は、ややもすると軽やかに受け止められる。しかし、今の若者は既存の生き方にとらわれない夢追い人ばかりではない。正規の職に就きたくともつけずにもがく若者がいる。玄田(2001)は巧妙な語り口で「現実に、事実としてそこにある不安」をあえて「曖昧」と表現した。

そこで本稿では、若年層に注目して彼らの階層帰属意識を国際比較の枠組みから検討する。本稿の前半部は階層意識について、後半部は親と同居する成人未婚子の位置づけについて実証データを用いて検討する。若年層は中高年層に比べて、高い不平等観や不公平感を持ちやすく、将来についても世の中の不平等は拡大するであろうと悲観的な立場をとりやすい(白波瀬 2005)。このような若年層の相対的に悲観的な見解は、他国にも認められるのだろうか。人々の認知を通じた階層構造を国際比較し、日本の位置付けを検討してみたい。かつてもはやされた「総中流社会」日本は、2000年を前にしても妥当する特質であるのか。

本論で使用するデータは1999年 International Social Survey: Inequality で、横断的な国際マイクロデータである。各国のサンプルサイズがそれほど大きくないので、分析によっては解釈に注意を要する。しかし、質問項目をできるだけ統一し、各国で調査したデータを整合した国際マイクロデータとして手軽にアクセスできる意味で、貴重である。横断的なデータであることから、ライフコースに従った個人意識の変化を測ることはできないが、

年齢の違いによる意識の違い・類似性を議論する。日本との比較対象国として、旧西ドイツ、イギリス、アメリカ、ノルウェー、スウェーデン、フィリピン、スペイン、フランス、を取り上げる。各国のサンプルサイズは、旧西ドイツ 921、イギリス 804、アメリカ 1,272、ノルウェー1,268、スウェーデン 1,250、フィリピン 1,200、日本 1,325、スペイン 1,211、フランス 1,889 である。このうち本分析では、20～69 歳の男女を対象とする。

2. 階層帰属意識の国際比較

本節では、階層帰属意識に関する国際比較分析を行う。かつて日本は総中流社会ともてはやされたが、果たして1990年代終わりにおいても日本は総中流社会として特徴づけられるのか。

2-1 階層帰属意識の年齢差、ジェンダー差

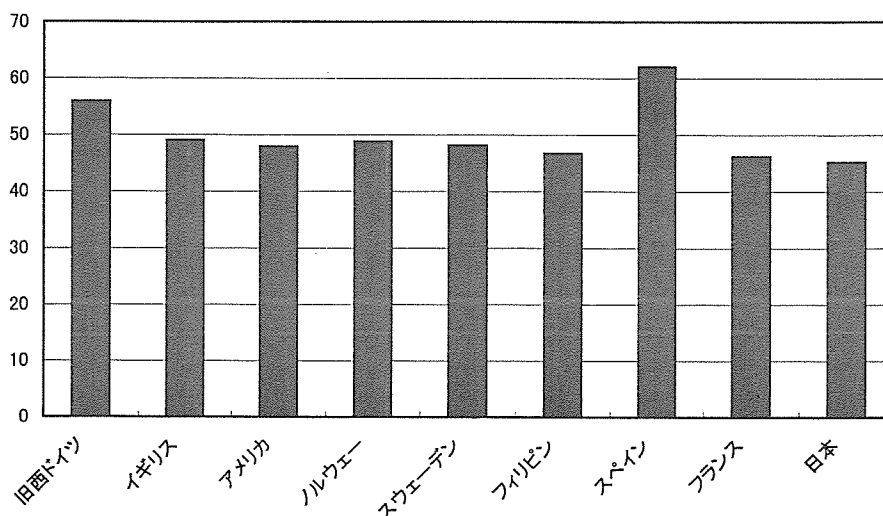
表1 各国の階層帰属意識分布

階層スケール	旧西ドイツ	イギリス	アメリカ	ノルウェー	スウェーデン	フィリピン	スペイン	フランス	日本
1(最下位)	1.3	2.2	1.7	0.9	1.3	5.7	1.7	1.4	5.1
2	1.4	5.0	1.7	1.1	1.9	6.2	2.6	2.3	6.8
3	6.1	10.2	5.6	4.8	6.4	13.8	9.1	9.6	13.3
4	10.8	15.2	10.8	6.1	9.9	13.2	13.2	17.2	18.2
5	21.6	16.5	16.3	12.8	12.4	18.9	18.8	16.9	18.0
6	34.3	32.5	31.6	36.0	35.7	27.8	43.2	29.3	27.2
7	16.2	10.9	15.3	24.0	21.0	6.7	8.2	16.1	7.8
8	6.6	5.8	11.0	11.6	9.9	4.3	2.7	6.0	2.4
9	1.6	1.3	2.8	2.1	0.6	1.8	0.4	0.8	0.3
10(最上位)	0.1	0.5	3.1	0.6	1.0	1.5	0.0	0.4	0.7

出所)1999ISSP

表1は調査対象者に世の中を最低1から最高10ポイントのスケールで分けた場合に、どこに自分が帰属するかを聞いた結果である。日本の特徴は、他国に比べて低いスケールに偏っていることである。1～5ポイントの合計値が日本は60.3%であるが、旧西ドイツ40.2%、アメリカ37.1%、ノルウェー25.5%、スウェーデン31.8%と日本よりも低い。日本は過半数が5ポイント以下の階層に自らを置いている。日本と近い分布を呈したのがフィリピンである。フィリピン人の58%が5ポイント以下の階層にいるとする。

図1 国別、中階層割合(%)



総中流階層論の根拠が日本人の大多数が中流意識をもつということであったので、階層スケールの真中をとって5と6に自らの置いた中位階層意識をもつ者の割合をみてみよう(図1)¹。本データから見る限り、日本の値は他国に比べて決して高いとはいえない。それどころか日本は最も低い45.2%であり、他国に比べて大きく逸脱する値ではない。スペインが62.0%と対象国の中で最も高く、旧西ドイツの55.9%がそれに次ぐ。本分析結果から見る限り、日本は特別高い中層意識をもっているわけではなく、階層帰属意識分布は相対的に低い値に偏っている²。

表2 国別、平均階層帰属スケール値

	平均値	変動係数
旧西ドイツ	5.615	0.263
イギリス	5.195	0.330
アメリカ	5.874	0.301
ノルウェー	6.072	0.244
スウェーデン	5.812	0.273
フィリピン	4.865	0.398
スペイン	5.233	0.272
フランス	5.359	0.299
日本	4.692	0.375

表3 各国の男女別平均階層帰属スケール値

	男性	女性
旧西ドイツ	5.683	5.547
イギリス	5.319	5.089
アメリカ*	6.016	5.764
ノルウェー	6.146	6.000
スウェーデン	5.908	5.721
フィリピン	4.892	4.839
スペイン	5.261	5.204
フランス**	5.343	5.135
日本	4.753	4.634

注) *1%水準で男女差が統計的に有意

**5%水準で、男女差が統計的に有意

10ポイントスケールの平均値を国ごとに比較してみよう(表2)。日本は最も平均値が低く、4.7である。フィリピンは日本に次いで低い値の4.9である。一方、最も高い平均値を呈したのがノルウェーの6.1である。スウェーデン、アメリカもそれぞれ5.8、5.9と比較的高い値を示す。しかし、いくら平均値が高くとも、散らばりの程度を勘案しなくては意識の上の不平等度を測ることができない。そこで変動係数をみると、日本はフィリピン(.398)に次いで高い.375である。変動係数が低い国は、ノルウェー(.244)、旧西ドイツ(.263)、スウェーデン(.273)などである。日本人の階層帰属意識は平均して他国よりも低く、意識の散らばり程度は高い。日本は、決して、大多数が中流(中層)意識をもつ「総中流社会」ではないことがわかる。

では、国ごとに年齢別、ジェンダー別に階層帰属平均値をみてみよう。ここで問われる質問は、各国で年齢の違い、ジェンダーの違いによって階層帰属意識がどの程度違うのか、変わらないのか、である。他国の階層帰属意識に関する年齢、ジェンダー効果は日本と類似しているのか、どうかを検討される。表3は、国ごとのジェンダーによる階層帰属意識の平均値の違いである。一般に男性の方が平均して女性よりも高い階層帰属意識を呈する傾向にある。しかし、5%水準で統計的に有意な違いを示したのは、アメリカとフランスのみである。日本は、男性4.8、女性4.6であるがその差は統計的には有意ではない。日本を含む多くの国では、ジェンダーによってのみ階層帰属意識が大きく異ならない。

表4 各国の年齢階級別、平均階層帰属スケール値

	旧西ドイツ	イギリス	アメリカ	ノルウェイ	スウェーデン	フィリピン	スペイン**	フランス**	日本**
20代	5.600	4.840	5.898	6.070	6.021	5.128	5.475	5.343	4.237
30代	5.727	5.400	5.703	6.179	5.810	4.740	5.338	5.294	4.495
40代	5.494	5.331	5.921	6.125	5.733	4.708	5.240	5.187	5.063
50代	5.796	5.188	5.941	5.946	5.716	4.785	5.134	5.538	5.072
60代	5.465	5.101	6.020	5.915	5.785	4.943	4.825	5.493	4.477

注)**1%水準で、年齢別平均値の差が統計的に有意

表 4 は年齢階級ごとの階層帰属意識の平均スコアである。まず、年齢階級ごとに階層帰属意識が統計的に有意な違いを示した国は、スペイン、フランス、日本の 3 カ国である。その他の国については、年齢階級によって階層帰属意識は有意に変わらない。スペイン、フランスと同様に重要な年齢階級の違いによる影響が日本で認められたが、他国と比較した日本の特徴は、20 代、30 代の比較的若い層の階層帰属意識スケールが他の年齢階級に比べて低い点にある。日本では、若い層ほど階層帰属意識は低い傾向にあり、60 代の高齢層で再び階層帰属意識が低下していく。このように日本の階層帰属意識は年齢（世代）の違いによって大きく異なることが、他国に認められない特徴である。イギリスの 20 代は 4.8 と他の年齢層に比べて低い値を示しているが、年齢階層間の違いは統計的に有意ではない。それ以外の国は、20 代の若年層の階層帰属意識スコアは高い傾向にあり、フランス、スペインでも 20 代の階層帰属意識スコアは高い。

2-2. 階層上の地位の相対的位置づけ

表5 年齢階級別、10年前と比べた階層帰属意識スケールの差

	旧西ドイツ**	イギリス**	アメリカ**	ノルウェイ**	スウェーデン**	フィリピン*	スペイン	フランス**	日本**
20代	0.775	0.301	0.757	0.791	0.603	-0.027	0.219	0.758	0.664
30代	0.774	0.548	0.870	1.209	0.524	-0.521	0.316	0.798	0.250
40代	0.226	-0.014	0.566	0.551	0.149	-0.444	0.083	0.220	0.308
50代	0.239	-0.148	0.549	0.142	-0.181	-0.651	0.071	0.070	0.119
60代	-0.176	-0.481	-0.222	0.000	-0.107	-0.483	0.088	-0.010	-0.642
平均	0.367	0.030	0.602	0.640	0.208	-0.383	0.167	0.315	0.174

注)**1%水準で、年齢別階層帰属意識スケールの差が統計的に有意

*5%水準で、年齢別階層帰属意識スケールの差が統計的に有意

ここでは現在の階層上の地位を 10 年前と比べた場合と、父親の仕事との比較を通して明らかにしていく。表 5 は、10 年前の階層上の地位（現時点からみた回答）と現在の地位とを年齢階級別に比較した結果である。マイナスの符号は、現在の地位の方が 10 年前よりも低いことを示す。全体の平均は、日本の値（.174）で改善度が相対的に低い。日本よりも低い値を示したのは、スペイン（.167）とイギリス（.030）である。一方高い改善度を示したのは、ノルウェーの.640 で特に 30 代の改善度（1.209）が高い。10 年前よりも平均して階層上の地位が平均して低いとしたのは、フィリピンのみであった。しかし、フィリピンの年齢別の違いは統計的に有意ではない。

では、年齢階級別に 10 年前との階層上の地位を比較した結果をみてみよう。日本は、若年層ほど 10 年前よりも現在の階層上の地位が改善され傾向にある。30 代になると階層上の地位の改善後は大きく後退し、30 代の改善度（.250）は他国と比べても低い。旧西ドイツ、スウェーデン、フランスも同様に若年層の間で、10 年前と比べて階層上の地位が上昇したとする割合が高い。一方、日本では、60 代以上の高齢層で 10 年前と比べて階層上の地位が目減りしたとする割合が高い。60 代の -0.642 は他国にくらべて最も低い値である。このよ